

養成講座がくれた信頼のきずな

流山市 久保村俊哉

復職面談を通して休職者の思いに触れるうち、本人のためにも、そして彼らを預かる会社のためにも、もっとその気持ちを受けとめたいと思うようになりました…。

自己紹介

私は正規・非正規併せて約50000人の従業員が働く小売業で人事労務担当の仕事をしております。

全従業員の労務管理全般と疾病等の休職者管理等を主に行っております。労働時間から雇用トラブルまで、従業員に関わる全ての労務問題が私の仕事です。

私は自分の仕事を紹介する時に、「人事担当が入社採用等『入口』の仕事であれば、私の仕事は退職に関わる『出口』の仕事です」と譬えて話します。よく、「久保村さんの仕事は本当にストレスが溜まる仕事ですね。自分にはなかなか出来ません」と言われます。周囲には淡々とこなしているように見えているようですが、実はかなりストレス溜まっているのです。でも終業時間を迎えたら仕事のことには忘れるように心掛け、ONとOFFのけじめをつけることで、

ストレスフリーになっていくように感じます。毎日頂くお酒がその特效薬だと思っています!!

資格取得

私の担当業務の一つに、休職者の復職面談があります。主治医、産業医の面談が終わった後の会社として判断する最終の面談です。脳・心臓疾患、癌等の身体疾病から適応障害、うつ病等のメンタル疾患まで、様々な傷病から復職を目指す従業員がおります。私は特にメンタル疾患からの復職者に対して、会社側の目線で、「本当に復職出来るのか」「復職しても再び繰り返さないか」「復職後は同僚と上手くやっていけるか」等、様々な懸念を抱いて面談に臨んでいました。そして、再発の可能性や周囲への影響を考えると、簡単に「復職OK」と判断してよいものか悩み、復職するにしても厳しく「もう二度と同様の疾病に罹らないように」と鍵掛けをすべきではないか等と考え、会社寄りのスタン

スで行なっていました。時には、「今度発症したら退職になります」等の厳しい言葉を投げたこともありました。

しかし、複数の面談を進めるとメンタル疾患に罹る発症の原因が業務にあるのか、プライベートの生活によるものかの違いや、罹患する従業員の勤続の長短や老若男女とは関係ないこと等が分かってきました。また、性格は真面目な方が多く、上手く立ち回ることが苦手であったり、自分で問題全てを抱えてしまったりという性向があることにも気付きました。すると、「こんな会社寄りの面談をしていて人として本当に良いのだろうか?」「従業員を預かる身として会社にとって良いのだろうか?」と考えるようになってきました。

そんな時、「産業カウンセラー」という資格を会社の健康相談センターの室長より紹介されました。その室長も産業カウンセラーの資格を持っており、日々カウンセリングに当たってお

